

令和7年度入学 社会福祉学部 一般選抜・前期 試験問題の出典

種別	大問番号	著者名	著作物名	書名等	版元
総合問題	1	岡田 温司	半透明の美学	2010年 pp.80-84より 一部改変	岩波書店
	2	清水 晶子	フェミニズムってなんですか？	2022年 pp.214-218より 一部改変	文藝春秋
	3	Papalia, D.E., Olds, S.W., & Feldman, R.D.	Adolescents in Trouble :Antisocial Behavior and Juvenile Delinquency	Human Development 8th edition 2001 p.475より 一部改変	McGraw-Hill
	4	警察庁	令和5年版警察白書	2023年,時間帯別,学齢別の交通事故死者数及び負傷者数(令和4年)より 一部改変	警察庁

令和7年度 一般選抜・前期

## 社会福祉学部

# 総合問題 (120分)

### 注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 この冊子は、10ページあります。なお、下書き用紙が2枚あります。
- 3 試験中に問題冊子及び解答用紙の印刷不鮮明、ページの脱落などがあった場合は、手を挙げて試験監督者に知らせなさい。
- 4 解答は、必ず黒鉛筆(シャープペンシルも可)で記入し、ボールペンや万年筆などを使用してはいけません。
- 5 解答用紙には、氏名及び受験票と同じ受験番号を忘れずに記入しなさい。
- 6 解答は、必ず解答用紙の指定された箇所に記入しなさい。
- 7 下書きの必要があれば、下書き用紙を利用してかまいません。
- 8 試験終了後、問題冊子と下書き用紙は持ち帰りなさい。

問題訂正 (社会福祉学部 総合問題)

問題冊子 P. 2 1 3行目

誤) 表されて

正) 表わされて

問題冊子 P. 2 1 14行目

誤) 著書

正) 著者

1 次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。(配点 140 点)

灰色、あるいはグレイという色について、わたしたちの誰もがごく普通に抱いているにちがいない感覚は、おそらくどちらかというとな否定的なものであろう。白でも黒でもない、かぎりなくファジーな領域。曖昧で不活性、憂鬱で殺伐としていて、しかも欺瞞<sup>ぎまん</sup>や策略やトリックがひそかに張り巡らされている領域。道徳的にも物理的にも、腐敗と墮落へと滑りこむ傾向性。グレイな気分、グレイな情報、グレイな政治などといった調子である。色の歴史に詳しいミシェル・パストローも、灰色は「染み、まだら、不純や不潔といった観念」を呼び覚ますと述べている。

そればかりか、灰色はまた、没个性的で匿名的な色でもある。無難なグレイのスーツが象徴しているように。それは、どこまでいっても無関心でニュートラル、見方によっては不正確で不明瞭な色である。いや、そもそも灰色は本当に色なのだろうか。実のところ、無彩色と呼ばれているのではないか(わたしはここで、灰色を、色それ自体としてばかりでなく、メタファーとしても用いているが、それは実体と比喩とを混同しているからではない。グレイという色は、むしろ両者を切り離すことができない色なのである)。

しかしながら、見方を変えれば、だからこそ逆に無限のニュアンスに開かれた色でもある、灰色は。微妙な<sup>(ア)</sup>ノウタン<sup>(ア)</sup>の変化、光と影の戯れ、明暗の繊細な機微、灰色はそういったものを表現できる可能性を秘めた色でもある。まさしく、災い転じて福となすである。みずからはいかなる特性ももたないがゆえに、いかなる色にも染まりうるという潜勢力を宿しているのである。

(中 略)

ちなみに、カラー<sup>(イ)</sup>フクセイ<sup>(イ)</sup>の技術が著しく発達した現代にあってもなお、モノクロームの写真や映画が根強い人気を保っているのは、それらがグレイの微妙なトーンを醸しだしているからではないだろうか。時間の経過とともにそれは、セピア色へと変化することもある。厳密にはセピア色は黒褐色だが、わたしたちのイメージのなかでは、灰色のヴァリエーションのひとつに近い。デジタル技術を<sup>(ウ)</sup>クシ<sup>(ウ)</sup>してカラー映像に焼きなおされた、いにしへの白黒の名作をあらためて観なおして、興ざめしてしまったという経験は、おそらく多くの人が共有しているにちがいない。

だが、ここでひとつの反論が予想される。たしかに、グレイは多様なニュアンスを秘めているかもしれない。が、それは、グレイそのものの力というよりも、白と黒(の混合)から派生したものにすぎないのではないかと。アルベルティもそう考えていたように。然り。かくしてわたしたちは、またしても灰色の没個性、[ A ]へと逆戻りすることになるのだが、しかし、そここそ灰色の個性があることは、ここであらためて強調されていいだろう。つまり、こういう色だと肯定的かつ断定的に述べることができないという点にこそ、灰色の積極的な意味があるのだ。自己を主張するというよりも、他者から受けとったものを送り返すこと。没個性の個性、非人称の人称、それが灰色である。

これにくらべると、とりわけ白はそれ自体として自己主張の強い色である。ニュートンによる

プリズムの実験以来、すべての色の源へといっそう格上げされたことは別にしても、白は、古くから純粹や無垢、コウケツや洗練と強く結びついてきた。多言を弄するまでもなく、純白という言葉の回しに端的にそれが表されているだろう。17世紀にリュウセイを極めたカトリックの図像、《無原罪の御宿り》のマリアは、神々しいほどの純白の衣装に身を包んで、太陽の光に照らされている。

白を表わすギリシア語の「レウコス」には、光や輝きのほかに、幸福や喜びという意味もある。それは、神聖にして絶対的な色、栄光と祝福、理性と知性の色でもある。生前キリストが3人の弟子を連れて山に登ると、その姿が見る見るうちに彼らの目の前で変わり、顔は太陽のように、服はますます「光のように白くなった」というエピソード——いわゆる「キリスト変容」——もまた、古くから絵画のテーマとして好まれてきたものである。

だが、その一方で白は、クウキョ、不在、死の色でもある。白い布に遺体をくるむという風習は、古代のエジプトからあったことが知られている。それゆえ白は、恐怖ともまた強く結びついている。「西洋の白は、さらに別のより生々しい恐怖をも隠している」とは、『クロモフォビア』の著書デイヴィッド・バチェラーの指摘である。そしてそれを何よりも雄弁に物語っているのは、メルヴィルの小説『白鯨』であろう。底知れない恐怖の奈落へと人を突き落としかねない巨大な白のかたまり。気高いがしかし同時に恐怖をもたらすものでもあるという点で、「崇高」という観点から白を論じることは可能だろうが、それについてはまた場を改めることにしよう。

このように白は、ある種の過剰性、両極性において際立っているのだが、他方の灰色は、それとは打って変わって、過剰でもなければ両極端でもないという点にその特徴がある。要するに、曖昧でどっちつかずというわけである。無垢でも崇高でもなく、光でも闇でもなく、昼でも夜でもなく、天でも地でもなく、現前でも不在でもなく、リアルでもヴァーチャルでもない。文字どおり、「白黒つかない」というわけである。

しかし、もしそうだとすれば灰色は、見方を変えると、それら両極のどちらにも傾きうる色だということになる。ジャン＝リュック・エニグの美しい表現を借りるなら、このあいだの色はまた、かすかな「色の震え」のことでもあるのだ。わずかに白を曇らせるだけで、事態は一転してしまうのである。いみじくもウイトゲンシュタインもまた、白と灰色の境界はきわめて微妙であって、白と呼ぶか、それとも灰色と呼ぶかは、隣や周りの状況、光の強弱によっても変わってくる、と指摘している。いわく、「ある状況ではこの色は私にとって照明が暗いときの白であり、別の状況では照明が明るいときの灰色である」、と。

(岡田温司『半透明の美学』、岩波書店、2010年、pp.80-84より、一部改変)

問 1 下線部(ア)～(カ)のカタカナを漢字にきなさい。

問 2 空欄[ A ]に入れるべき語句を、次の中から選んで答えなさい。

記名性, 明瞭性, 過剰性, 無関心性

問 3 下線部(1)「両極性において際立っている」とあるが、白における両極性の例を抜き出し、対比しながら 70 字以上 90 字以内で分かりやすく書きなさい。

問 4 白と灰色の違いを述べ、両者の関係を「境界」という言葉を用いて、150 字以上 170 字以内で説明しなさい。

2

次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。(配点 140 点)

経済的「自立」であれ、それ以外の「自立」であれ、「自立」を追求しさえすればそれで良い、というわけではありません。「自立」が何を意味しているのか、「自立」の重要性を追求することが何に繋がるのかは、一度立ち止まって考える必要があります。私たちの社会においては、自立と依存が対立する概念のように語られることが多いのではないのでしょうか。けれども、まったく誰にも依存せずに自立している人はいませんし、私たちは誰もが何らかの形で他者に支えられ、他者の力を借りて生きています。

無償労働を通じて家庭と社会とを支えてきた女性を、その事実にもかかわらず「自立」できない存在とみなすことで、彼女たちの労働を搾取してきた——そんな社会のカラクリを、フェミニズムは明らかにしました。つまり、社会は男性による庇護に「依存」しているとみなされた女性たちの労働に依存することによって成立しているのに、社会を動かす中枢の位置を占める男性たちはその依存を認めることなく、「自立」した一人前の人間とみなされてきたわけです。

特定の依存の形式を依存と認めないことで限られた人々を「自立」した存在と位置付ける一方で、それ以外の人々を「自立」していない存在、従って社会において十全な権利の認められない半人前の存在とみなし、従属的な地位に留めおく——これが歴史的に女性の抑圧のひとつの形態であった以上、フェミニズムは単に「自立を目指そう、依存を抜け出そう」とだけ主張することはできません。「自立」「依存」という地位がどのような人々にどのように振り分けられてきたのか、それを分解し、見直す必要があるのです。

「自立」を見直すこれと同様の試みは、障害者運動では「自立生活運動」などを通じて自覚的に行われてきました。自分の生活を支えるだけの収入を得ることが困難であったり、日常生活に介助が必要であったりする障害者は、しばしば、社会なり医療従事者なり家族なりに「依存」した存在とみなされましたが、これは、例えば本人の望まない形での病院や施設への収容を正当化するなど、障害者自身の意思と自己決定を軽視することに繋がります。自立生活運動は、そのような発想に対し、経済的な扶助を受けるか否か、日常生活で介助を必要とするか否かにかかわらず、障害者自身が自分の生活のあり方を選択し決定することこそを、「自立」としたのです。

骨形成不全症で電動車椅子を利用するコラムニストの伊是名夏子さんが、2021年4月、旅行に出かけた際に下車を予定している無人駅に階段しかないという理由で「ご案内できない」と言われたとして、「乗車拒否されました」とブログで報告をしたところ、激しいバッシングを受ける、という出来事がありました。彼女は「高齢者やベビーカーユーザーにとっても同じ困りごとがある」として公共交通機関のアクセスの向上を求めたのですが、それに対して「わがまま」「モンスタークレーマー」「他人に頼らなければ生きていけない自分を恥じる」などの誹謗が相次いだのです。

けれども、エレベーターなどのない駅で階段での介助を依頼する車椅子ユーザーは「他人に頼」っているとみなされる反面で、数時間や数日かけて歩くこともできなくはないのに目的地ま

での移動に電車を利用する人々は、「他人に頼」っているとはみなされません。どちらも「自力」だけで移動をしているわけではないのに、前者だけは「他人に頼」っていることを「恥じ」るべきと言われ、そのような人が自分の権利を主張するのは「わがまま」だ、とされてしまう。車椅子ユーザーは他人に頼っていて、それに対して一般に電車を利用する人々は他人に頼っているわけでない、という〔A〕的な区分をした上で、「他者のサポートを受けて生きている人間は、依存の自覚と感謝の念を持って大人しくしているべきだ」という要請がなされるのです。

このようにきわめて偏った<sup>(\*)</sup>、しかも一面的なかたちで「自立」と「依存」が振り分けられていく社会において、「自立」していない人とみなされ得る人たち——障害や病気を持つ人、生活保護を受けている人など——による権利の主張は、強い風当たりを受けます。私はこんなに必死で「自立」しているのに、あの人たちはそういう私に依存していて、その癖さらに権利まで主張するのか、許せない、という形で、より「自立」していないとみなされる人々をたたいていく。そんなたたき<sup>(2)</sup>合いにつながるような「自立」の強迫には救いがない、と思います。

けれども、特定の自立を支える依存を黙認し、別の自立を支える依存を「迷惑」とみなす振り分け方を前提としたまま「自立」だけを追求するとしたら、それは、社会にすでに存在するさまざまな不平等や格差を温存したまま自己責任を問うことにほかなりません。必要なのは、「他人に迷惑をかけない」ことでも、おそらく必ずしも「自力でがんばる」ことですらもないような「自立」を考えること、あるいは何なら「自立」しなくても生きていける社会を考えること、ではないでしょうか。

(清水晶子『フェミニズムってなんですか?』、文藝春秋、2022年、pp.214-218より、一部改変)

問 1 下線部(ア)~(オ)の漢字の読み仮名を記しなさい。

問 2 空欄 [ A ]に入るもっとも適切なことばを、次の選択肢から選んで記入しなさい。

計画, 一律, 恣意, 無作為
-----------------

問 3 下線部(1)「『自立』『依存』という地位がどのような人々にどのように振り分けられてきたのか」とあるが、具体的にどのようなことか、本文の内容に即して、80字以上100字以内で答えなさい。

問 4 下線部(2)「そんなたたき合いにつながるような『自立』の強迫には救いがない」とあるが、たたき合いにつながるような「自立」の強迫とはどのようなことで、それがなぜ救いがないのか、本文の内容に即して160字以上180字以内で答えなさい。

- 3 「delinquency (非行) に対する集団の影響」について書かれた次の英文を読み、あとの問いに答えなさい。(配点 110 点)

この部分の問題は、著作権の関係により公開できません。

(Papalia, D.E., Olds, S.W., & Feldman, R.D., "Adolescents in Trouble: Antisocial Behavior and Juvenile Delinquency," *Human Development 8th edition*, McGraw-Hill, 2001, p.475 より, 一部改変)

注 gravitate 引き付けられる

deviant 逸脱した

Oregon オレゴン州(アメリカの州)

tracking (クラスの)能力別編成

Montreal モントリオール(カナダの都市)

maladjustment 不適応

問 1 以下に与えられた語句を並べかえて、空欄[ ア ]に入る適切な英文を書きなさい。ただし、文頭は大文字にすること。

contribute / delinquency / does / the peer group / how / much / to / ?

問 2 下線部①について、fall in with と同じ意味の述語表現を本文中から抜き出し、英語で書きなさい。

問 3 文中の空欄[ イ ]に入る最も適切な語句を以下の 1 から 4 の中から選び、番号を書きなさい。

1 homework      2 poorly      3 the best      4 well

問 4 文中の 3 つの空欄  に共通して入る最も適切な前置詞を以下から 1 つ選び、英語で書きなさい。

問 5 文中の空欄[ ウ ]に入る文法的に適切な述語表現を、以下の 1 から 4 の中から選び、番号を書きなさい。

1 had identified      2 identified  
3 had been identified      4 would be identified

問 6 以下の英文が冒頭に挿入されるのは何段落目か、番号を書きなさい。

The way antisocial teenagers talk among themselves constitutes a sort of “deviancy training.”

(      )段落目

問 7 以下に与えられた語句を並べかえて、空欄[ エ ]に入る適切な英語表現を書きなさい。

antisocial tendencies / do / ignore / not / show / such talk / who

4 次の表は、時間帯別、学齢別の交通事故負傷者数を示したものである。以下の問いに答えなさい。(配点110点)

表 時間帯別、学齢別の交通事故負傷者数

	総数(人)		幼児(人)		小学生(人)		(オ) 中学生 (人)
		構成比 (%) <sup>注)</sup>	(ア) 未就園児	(イ)幼稚園 (保育所)児	(ウ) 1～3年生	(エ) 4～6年生	
0～2時	51	0.2	11	8	5	7	20
2～4時	28	A	0	5	7	5	11
4～6時	49	0.2	7	4	9	13	16
6～8時	1,574	7.6	44	122	319	222	867
8～10時	2,031	9.9	309	484	346	271	621
10～12時	1,874	9.1	407	331	385	355	396
12～14時	2,329	11.3	339	309	485	563	633
14～16時	3,979	19.3	410	509	1,316	986	758
16～18時	5,360	B	432	596	1,455	1,517	1,360
18～20時	2,347	11.4	194	262	472	548	871
20～22時	780	3.8	82	96	125	146	331
22～24時	194	0.9	30	22	36	35	71
合計	20,596	100.0	2,265	2,748	4,960	4,668	5,955

(警察庁『令和5年版警察白書』, 2023年, 時間帯別, 学齢別の交通事故死者数及び負傷者数(令和4年)より, 一部改変)

注) 構成比(%)は, 小数点以下第2位を四捨五入しているため, 合計が100にならない場合がある。

問 1 負傷者総数の構成比(%)の太枠で囲まれた部分にある  欄及び  欄にあてはまる数値を算出なさい。なお、解答欄には、小数第 2 位を四捨五入して、小数第 1 位までの数値を記入なさい。また、答えに至るまでの過程がわかるよう、計算式も記入なさい。

問 2 表をもとに、負傷者総数の合計に対する時間帯別の負傷者総数の構成比(%)を示す円グラフを作成したとする。中心角が 27.36 度の扇形を描くのは、何時～何時であるか時間帯を答えなさい。また、答えに至るまでの過程がわかるよう、計算式も記入なさい。

問 3 下線部のように、8～10 時の未就園児の負傷者数と、12～14 時の幼稚園(保育所)児の負傷者数は、同数の 309 人である。まず、次の(1)～(4)の 4 つの区分の割合を算出なさい。

- (1) 8～10 時の負傷者総数に占める、未就園児の負傷者数の割合
- (2) 12～14 時の負傷者総数に占める、幼稚園(保育所)児の負傷者数の割合
- (3) 未就園児の負傷者数の合計に占める、8～10 時の未就園児の負傷者数の割合
- (4) 幼稚園(保育所)児の負傷者数の合計に占める、12～14 時の幼稚園(保育所)児の負傷者数の割合

次に、,  の 2 つのグループに分け、それぞれ算出した割合を比較する。グループ内の値の差が小さいのは、[(1)と(2)の差]、[(3)と(4)の差]のいずれか答えなさい。また、答えに至るまでの過程がわかるよう、計算式も記入なさい。

問 4 学齢別に、[ア]未就園児、[イ]幼稚園(保育所)児、[ウ]小学校 1～3 年生、[エ]小学校 4～6 年生、[オ]中学生]の 5 種類に分けて比較する。負傷者が発生した時間帯のうち、14～20 時の合計 6 時間の負傷者数について、各学齢別の負傷者数の合計に占める割合が少ない順に左から並べなさい。なお、解答欄には、[ア]～[オ]の記号を用いて答えなさい。また、答えに至るまでの過程がわかるよう、計算式も記入なさい。